



基本方針				取組	実施時期														
柱	方向性	取組内容	目指す姿	具体的行動	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	中期	長期	
2 子どもの 主体性 を 育 て ま す	子どもの 主体性を 育む授業 へ転換し ます	主体的・対話的で深 い学びの教育を進め ます	友達の意見を大事し ながら、主体的に課 題解決に取り組む子 ども	主体的・対話的で深い学びをふまえた「伝 え合う力、聴いて考えを深める力」の育成 を目指した校内授業研究を実施します。 日々の学習活動で合意形成を図る話し合い の場の充実を図ります。			全校研 学団研				学団研 全校研	学団研			全校研		継続	継続	
	子どもが 参画する 学校づく りを行い ます	学校行事は子ども主 体で行います	集団への一員である ことに対する自覚を 高め、人と人とのふ れあいやつながりを 深める子ども	児童会で学校における諸問題について考 え、行事については児童が主体となって話 し合い、実施します。	会議 1年生を 迎える会	会議		会議		会議	運動会	宝小まつ り	会議	図工展 いじめ防 止月間の 検証	会議	6年生を 送る会	児童が主体 の企画・実 践・検証を 定着させる	児童が主体 の企画・実 践・検証を 定着させる	
	児童会・ 生徒会を 活性化し ます	サミットで学校間交 流を図ります	学校や地域の課題を 把握し、課題解決に 向けて思考する子ど も	市で行う児童会サミットに参加し、意見交 換を行います。	創意工夫のある常時活動				サミット	サミット 結果を全 児童に報 告	創意工夫のある常時活動						拡充	拡充	
	子どもへ のエンパ ワメント を促進し ます	CAPの活用と検証 を行います	自分の思いを言葉や 態度で表現できる子 ども	中学年でCAPの授業を行い、自分の心と 体を守る予防教育を実施し、その成果と課 題をつかみます。									授業 検証					継続	継続
	いじめ防止教育につ ながるゲストティー チャーの授業を行いま す		弁護士や警察官、大学教授など、人権に関 する講師による児童対象の出前授業を実施 します。				平和学習 講話					サイバー 犯罪防止 教室					継続	継続	
4 チ ム 学 校 で 取 り 組 み ま す	学校の組 織対応力 を向上さ せます	教師がSOSを出せる 教師集団を作ります	同僚性を高め、互いに 信頼し合える教職員	学年や専科の枠を超えて相談できる場や チームで対応できる体制の充実を図りま す。					討議								継続	継続	
		★多職種連携を推進 します	互いの専門性を信頼し、 連携できる学校組織	各担当、SC,SSWがそれぞれの専門性を活かし、各 ケースに対応したチーム会議を開催します。	校内支援 委員会	→											継続	継続	
	子どもを 育む地域 や関係機 関との連 携を行いま す	地域ぐるみで子ども を見守ります	情報を発信し、家庭・ 地域に開かれた学校	学校運営協議会、青少年育成市民会議等で、学校の様子を 説明し、地域で子どもを育むことの協力を求めます。				学校運営 協議会						学校運営 協議会	学校運営 協議会			継続	継続
		保育所・幼稚園・小 中学校の連携を強化 します	中学校区における目 指す子ども像の実現 に向けた教育の連携 を推進する保幼小中 学校園所	中学校区の子どもの実態等の情報交換を行 い、いじめに対する学校の指導体制・指導 内容の充実を図ります。				連携会議	共有							引継会	継続	継続	
	関係機関との連携を 図ります	関係機関と情報を共有 し、迅速に対応できる 学校組織	学校の各ケースについて、常に家庭児童相談室、青 少年センター等と組織的に連携を図ります。	連携	→											継続	継続		
5 根 絶 し ま す	体罰を根 絶します	体罰の禁止を徹底し ます	子ども一人ひとりの人 権を守ることに徹する 教職員	体罰・ハラスメントの根絶に向けた事例研 修を実施し、教職員の人権意識を高めます 。	職員研修			職員研修				職員研修					継続	継続	
	あらゆる ハラスメ ントを根 絶します	あらゆるハラスメン トを根絶します			職員研修		職員研修					職員研修					継続	継続	

※柱3「部活動を改革します」については、中学校のみとなります。